

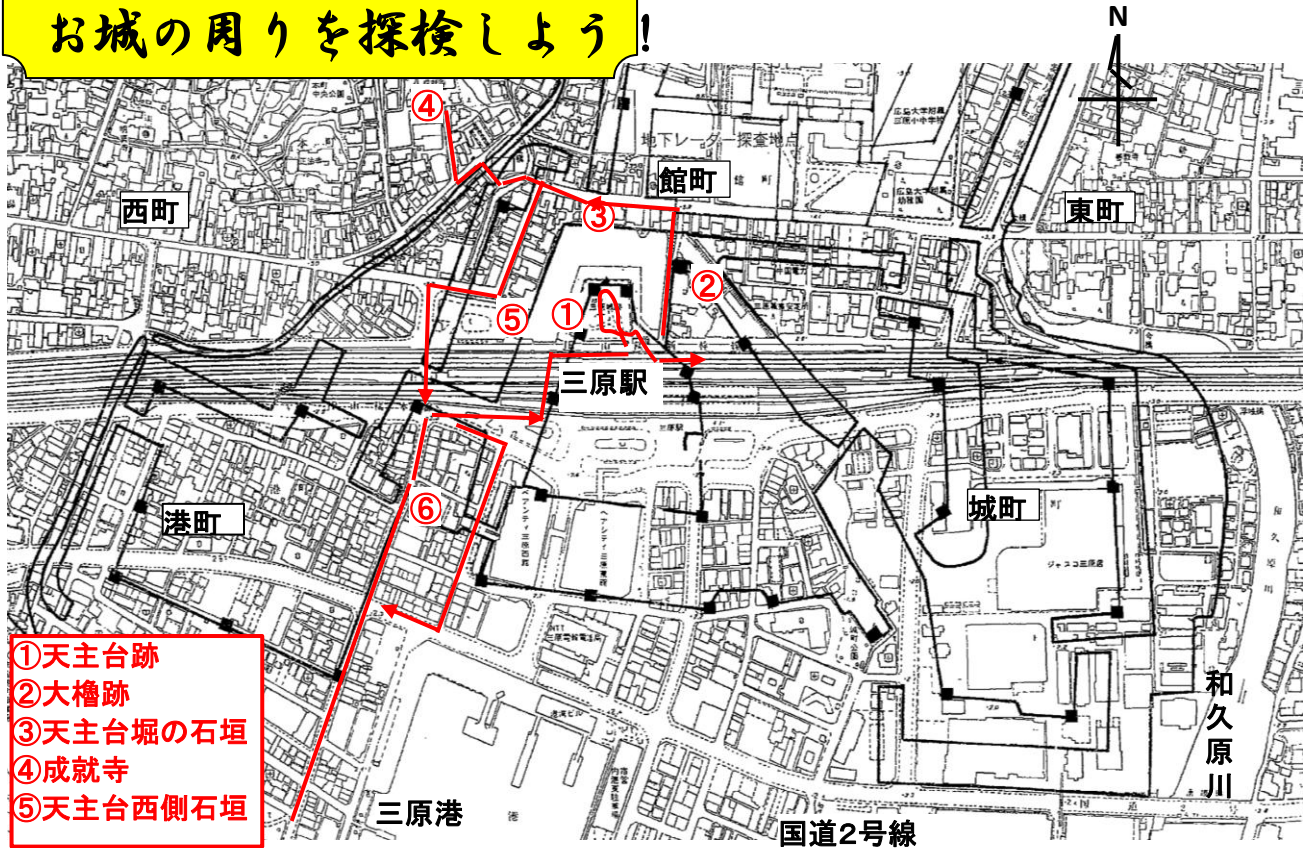


みはら 玉手箱



市民学芸員 体験グループ活動報告

お城の周りを探検しよう!



- ①天主台跡
- ②大櫓跡
- ③天主台堀の石垣
- ④成就寺
- ⑤天主台西側石垣

市民学芸員体験グループの活動として、約440年前の石垣が残る三原城跡を訪ねるイベント「お城の周りを探検しよう!」を実施しましたので、ご報告します。

- | | |
|---------|--|
| 1. 日時 | 平成24年10月27日(土) 10:30 ~ 12:00 |
| 2. 集合場所 | 三原市中央公民館前 |
| 3. コース | 中央公民館→三原城南西石垣→天主台跡→新幹線下石垣→大櫓跡
→後東門跡→成就寺→天主台西側石垣→中門跡→中央公民館 |
| 4. 対象 | 小学校3年生 ~ 6年生(保護者同伴可) |

この企画には、市民学芸員体験グループ25名が、三原市の多くの歴史遺産や自然遺産の再発見をしようと、6ヶ月前から計画を立てて準備に取り組んできました。

小学生12名、保護者8名に当日参加を合わせて、34名の参加者がありました。10時30分、中央公民館前を徒歩で三原城跡に向かいました。誘導係の市民学芸員6名が、笛や小旗で注意を促しながら、子どもたちの安全を見守りました。

三原城の石垣

まず、天主台の南西隅部で三原城の石垣について、時代ごとに石の形や石の積み方が違うことや、石の裏側の構造の説明をしました。城の専門語はさけて、小学生にも分かりやすい言葉で話すように心がけました。

三原小学校4年生から「石の裏側に沢山の小石があるのはなぜですか?」との質問!

『それは、大雨などで水を大量に含んだ地面は、強度が低下するので、小石を通して土の流れを抑えながら石垣から水だけを逃がしてやるためです』

新幹線高架下の石垣を見学しながら、子どもたちには、石の形・裏込め石・隅石などについて説明しました。

次いで、子どもたちに、天主台北側の縄張りの説明をしました。『30m幅の水堀を隔てて、5.4m幅の西国街道が通り、三原小学校グラウンドから広大附属小中学校にかけて、武家屋敷が30数軒ありました。』

小学5年生から「水堀の深さはどれくらい？」との質問！
『現在は水深60cm位かな？ お城が出来た頃は、塩水がここまで入ってきて、満潮の時は、3.6mであったそうです。私のおばあさんから聞いた話ですが、その頃には、多くの海魚が堀におよいでいたそうです。』

天主台西側の石垣では、明治10年頃の写真と見比べながら説明しました。

成就寺の市重要文化財

小早川隆景が、三原城築城にあたり各地からお寺を移して砦の役目をさせました。そのお寺の一つである「成就寺」に、ご無理をいって、市の重要文化財「小早川正平公（小早川総領家15代）像」、並びに対幅で描かれた「琴江令薫（成就寺を開山し、後に米山寺や京都東福寺の住職に出世）像」の2幅を公開していただきました。

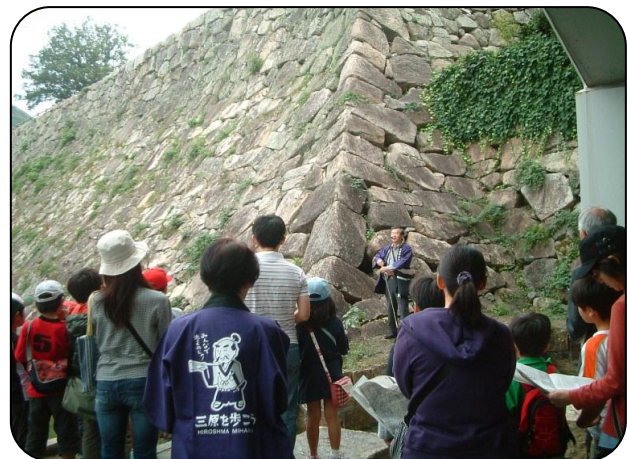
市民学芸員の手で本堂に掲示された掛け軸を見ながら、子どもたちに説明しました。その説明を終えて、「初めて文化財を見せていただき感動しました」とのお母さんの声を聞いた時、三原市民を対象にした、地域の文化財や、その価値を伝える手段（伝える人）がまだまだ不足していると感じました。市民学芸員の活躍の場を増やす必要があります。

今後の予定

私たち市民学芸員体験グループは、三原市の郷土文化財を掘り起こしながら、次のイベントを継続的に企画しますので、ご期待ください。



〔出発前のやや緊張した様子〕



〔先ず石垣の構造から説明開始〕



〔古写真と見比べて説明〕



ママ、
参加賞を
いただいたよ！



〔成就寺で市重要文化財の見学〕

みはら おもしろクイズ



(解答は最下段にあります)

1. 三原の誇る 世界一

創刊号でご紹介したような三原にある日本一は、まだまだ他にもあり、いずれ掲載させていただきますが、今回は、三原にある世界一についてクイズを楽しんでください。

(1) 宿禰島 が舞台の映画「裸の島」

佐木島の北方で小佐木島の東方に浮かぶ小島宿禰島は、3万年前の先土器遺跡のあるところですが、映画「裸の島」により一躍全世界で有名になりました。

新藤兼人監督、乙羽信子主演で自然と人間の厳しい闘いを独特のカメラワークで描いた作品で、昭和35(1960)年、白黒の無声映画ながら、モスクワ世界映画祭やメルボルン映画祭でグランプリを受賞したのです。世界の60数ヶ国で上映されています。

新藤兼人監督は、三原市最初の名誉市民であり、この映画は度々三原で上映されています。

Q 現在無人の宿禰島にも、かつて一人の男性が住んでいました。いつ頃まででしょうか？

- (ア) 大正13(1923)年頃まで
- (イ) 昭和48(1973)年頃まで
- (ウ) 平成3(1991)年頃まで



宿禰島の急坂を慣れない天秤棒で、満水の桶を運ぶ 乙羽信子さん
(彼女の肩の皮が三度むけたという)
近代映画協会提供

(2) 女子体操 池田敬子さん



広島県立三原高等学校卒業後、日本体育大学に入学し、翌年には全日本選手権大会で優勝しました。

昭和29(1954)年、ローマでの世界選手権大会の平均台種目で金メダルを獲得しました。

その後も、オリンピックや世界選手権に連続出場してメダルを獲得し、長い間体操界の第一人者でした。

平成14(2002)年、国際体操殿堂入りを果たし、翌年

[1993(昭和8)年 鷺浦町生まれ] には、三原市の名誉市民になりました。

Q 池田敬子(旧姓 田中)さんの全日本選手権での優勝回数は、何回でしょうか？

- (ア) 3回
- (イ) 5回
- (ウ) 10回



----- (今回の2例は、いずれも 三原市立図書館発行の「郷土三原ゆかりの人たち」ほかを参考にした) -----

クイズの解答

(ウ) (イ) (ア) (イ)



三原のお祭り



東町の祭りといえば、毎年2月の”神明祭り”が備後路に春を呼ぶ祭りで全国的にも有名ですが、今回は**三原市東町4丁目胡(えびす)神社**の**秋の例祭**を紹介します。東町は、米田山に沿う古い道と、東西に伸びる本通り（山陽道）の両側に並び家並みと、その通りに交わる路地があります。西から今小路、新八小路、我里屋小路です。この東町がさらに四つの丁に分かれて、それぞれに胡堂があります。



〔東町4丁目胡神社本殿〕

我里屋小路から東側が、東町4丁目です。

天正11(1583)年小早川隆景の指示で屋敷割が整えられ町の広さも近世初期の頃と殆ど変わっていません。その頃、東町4丁目は**市場町**として賑わっていました。

胡神社は、商人の信仰を集めた市場の守護神として受け継がれ守られてきました。



〔始まりの太鼓〕



〔祭壇の供物〕

秋の例祭には、糸碓神社の神主様をお迎えして神事が執り行われます。神主様の太鼓、祝詞(のりと)、集まった一人ひとりが玉串(たまぐし)奉納して、太鼓の音で厳かな神事(しんじ)が終わり、御神酒(おみき)を戴きます。祭りは結合を確保しつつ、人々の生産的労働を鼓舞するものです。

神にそなえた供物を会食する直会(なおらい)が必ず行われます。供物は神性を豊かに宿した食物で、人間の体内にとり入れられ、人々は凡人でなく神人と成るそうです。本殿のある東町4丁目の人達だけで、今も連綿と受け継がれ、続いている静かな祭りです。一方、2月の神明祭りは東町のそれぞれの胡堂が結合して一つになり、それぞれの胡堂に神明の神を迎えての祭りです。神明祭りのシンボル大だるまが東町4丁目胡神社拝殿前の頭上で鎮座して祭りを見守っています。



〔4丁目胡神社拝殿〕

(現在は4丁目が表示変更、本通りの北側が2丁目、南側が1丁目)



石碑が語る三原の歴史

創刊号では定屋橋を中心に紹介しましたが、第2号ではその定屋橋から沼田川を少し西下して沼田地方の石碑を紹介します。沼田(ぬた)地域は弥生時代には沼田川南側で稲作が行われていたことが推測されています。古墳時代に入ると沼田川流域を支配した首長のものと思われる古墳を始め多くの古墳が出現し、大和政権との強いつながりがあったことが推定されています。中世の古文書に出てくる「塩入荒野(しおいりこうや)」、「安直(あじか)塩入新田」という言葉から、干拓が行われるまでは満潮時には海水が進入していた入り江であったことがうかがえます。現在の本郷町を中心とした一帯は、沼田の庄とも呼ばれ、沼田氏によって私領化され、平安時代には平家領となりました。

しかし、治承4(1180)年から6年間にわたって各地で平氏政権に対する大規模な反乱が起こり、最終的には平氏政権は崩壊し、鎌倉幕府の樹立という結果に至りました。(一般的には「源平合戦」と呼ばれています)。そのため沼田の庄は平家没官領(もつかんりょう)となり、後白河法皇によって蓮華王院へ寄進され、その後西園寺家領となりました。小早川氏の租土肥実平(どひさねひら)が沼田の庄の地頭となった頃からつながりが生じ、小早川氏が沼田の庄に根を下ろしたのは、実平の子小早川遠平(とおひら)の孫茂平(しげひら)のときです。鎌倉時代の嘉禎元(1235)年には茂平によって巨真山寺(きょしんざんじ)現在の米山寺が建立され、小早川家の氏寺として勢力を拡張し、塩入荒野の干拓も進められました。七代宣平(のぶひら)の頃には沼田川の河口が干拓によって広がり、その堤防の上に市が形成され、現在の本市付近の沼田川南岸には沼田本市、その北側に新市(現在の長谷町)という商業地が発達し、両市(いち)合わせて450軒余の商家、民家が建ち並んで、沼田庄の経済活動の拠点だったそうです。小早川隆景の時代に入って現本郷町の新高山城を本拠地としての活躍は皆様ご存じのとおりです。

道 標

一宮道標



沼田東町納所橋南詰の一宮豊田神社の正面土手上に重力の法則に逆らって倒れずに立っています。奥行 27cm、横幅 30cm、高さ 80cm の表碑文にはただ一宮と刻まれています。裏面、横面は判読不能。一宮豊田神社は、「芸藩通志」によれば土肥実平が勧請したといわれ、創建は建久元(1190)年といわれています。「社伝」によると天保年間(1830~1844)に宮ノ谷から現在地に移転されたようです。「墓沼寺(ひきぬでら)(現在の東禅寺)文書」によれば、楽音寺が当社の学頭職を兼ね、正月二日には当社で、修正会(しゅうしょうえ)(国家安泰、五穀豊穰などを祈願する法会)を執り行っていたとあり、当時沼田庄で最も崇拜されていた社であったようです。また、明治 42 年 5 月の改称までは、豊田一宮と称していたことから豊田郡で最高位の神社であったともいわれています。

なお、納所(のうそ)という地名は、当社の由緒に「古より諸国の願人当社を一宮と唱えて日々此処に詣で、お祓亦心願の経文を納む故此の里を納所と云い、終に村名と成るなり」と在り、これに由来するそうです。

記念碑



〔田阪 次三郎 敦篤碑〕

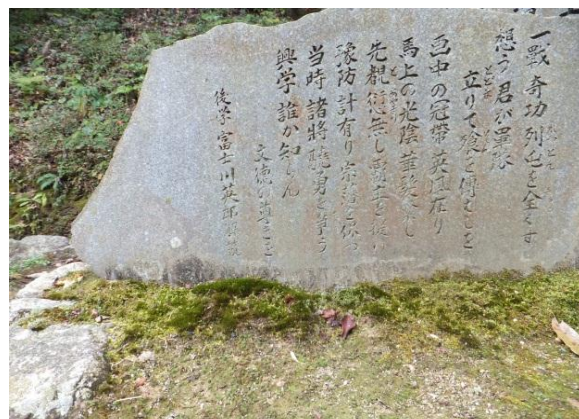
沼田東町末光 西光寺下に立っています。明治 28 年 4 月に建立され、横に糸崎 森 猪兵衛 刻とあります。奥行 40cm、横幅 40cm、高さ 170cm。末光村の田阪 次三郎という人が、江戸時代の安永 3(1774)年から安永 8 年にかけて鍵田川と亀川の灌漑工事を手掛けましたが、完成を待たず亡くなりました。次三郎没後は長子万三郎がその志を引継ぎ、50 町歩にわたる田に船越池からの水が行き渡るよう改良工事を行ったことに対して、藩主浅野侯から曾孫の文三郎に「敦篤」(とんとく)の二字を賜ったことを記念した碑です。

句碑・詩



〔菅茶山作漢詩の文学碑〕

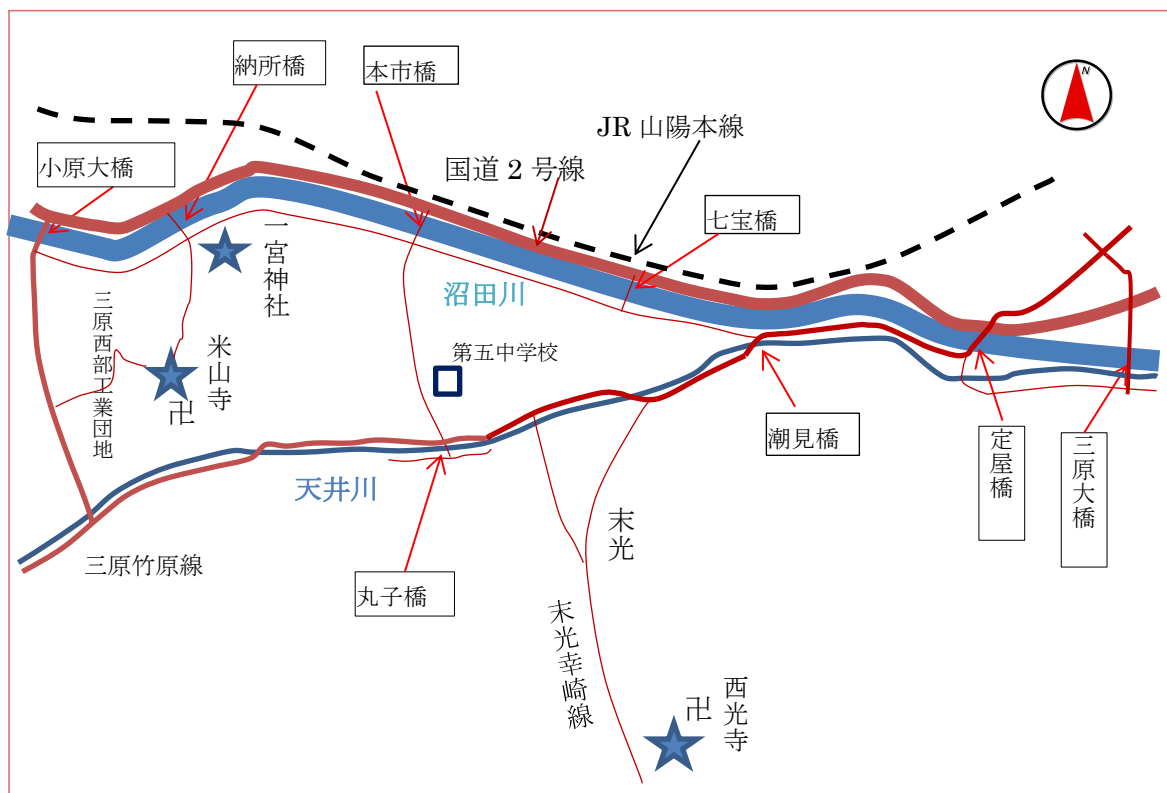
沼田西町の米山寺の小早川家墓所の右前に設置してあります。菅茶山は江戸時代後期の福山藩の儒学者であり漢詩人。頼山陽の師です。前文に「米山寺拜謁小早川中納言肖像」菅晋帥(ときのり)と本名が刻んであり、同寺所有の「絹本著色小早川隆景像」を拝観した際に詠んだものと思われる。

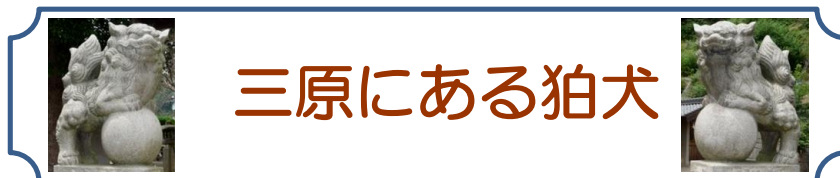


〔富士川 秀郎(ふじかわひでお)博士の解説碑〕

漢詩の読み下し文として、前部に設置してあります。富士川博士はドイツ文学者で、1956年東京大学の教養学部の教授となり、近世漢詩の研究分野においても著名です。1989年日本芸術院会員となり、1990年「菅茶山」で大佛次郎賞を受賞しました。

概略マップ





三原にある狛犬

狛犬の形式と狛犬文化圏

日本の狛犬は、大別すると三つの形式があり、それぞれを中心に狛犬文化圏を形成しています。

- ①江戸式狛犬（江戸狛犬文化圏）…「座型」…関東地方とその周辺（尻尾が背中で左右に）
 - ②浪花式狛犬（浪花狛犬文化圏）…「座型」…近畿・瀬戸内地方（尻尾が扇型）
 - ③出雲式狛犬（出雲狛犬文化圏）…「座型・構え型」…日本海沿岸地方（出雲尾立・出雲勇み）
- （*廣江正幸・永井 泰著「狛犬見聞録」より抜粋要約）

出雲式狛犬の歴史と形式変遷

江戸時代、江戸（江戸狛犬）・大阪（浪花狛犬）を起点として広まっていった社寺参道への石造狛犬寄進の流行を受け、出雲地方では松江石工たちによって作られた来待石（きまちいし）製の「出雲式狛犬」が登場し、その製品・形式は全国各地へと広まっていきました。これは天明年間（1781～89）初期と思われます。また、出雲狛犬の大きな特徴である「構え型」が登場したのは、寛政年間（1789～1801）初期です。

（*廣江正幸・永井 泰著「狛犬見聞録」より抜粋要約）

尾道狛犬（広島玉獅子）の登場

尾道の浄土寺山や千光寺周辺は良質の花崗岩が採れました。中世の頃、尾道の港が整備されると、石工職人の発祥の地である大和の国とも交流が盛んになり、石工職人も尾道に向向してきて土着したようです。その後、西廻り航路の北前船が寄港するようになってから尾道の石屋町は一段と活気を帯びていったようです。

尾道狛犬の特徴は、「玉乗り型」であり、浪花狛犬文化圏に属しますが、近畿から移り住んだ石工職人がオリジナリティーを発揮して考案された形式と思われます。三原にある狛犬の7～8割がこの「玉乗り型」です。なお玉乗りの玉は、獅子の毛玉を丸めた状態を表現したものだとの説があります。

（*向井博昭著「広島県内の江戸時代の参道狛犬」より抜粋要約）

それでは、「三原にある狛犬」を旧市内の東から、おおよそ中学校区割で1～2箇所ずつ紹介して行きます。

1. 系碕神社（三原市系碕八丁目）



〔鳥居前の玉乗り型〕

1. 大きさ（高さ*幅*奥行き）：cm
阿型：105*30*67
吡型：105*35*72
2. 年代
明治42（1909）年9月
3. 願主
山中村〇〇谷
阿型：高橋初五郎
吡型：高橋シゲノ
4. 製作者（石工）
不詳
5. 石材
花崗岩



〔本殿前の座型〕

1. 大きさ（高さ*幅*奥行き）：cm
阿型：96*36*64
吡型：95*35*65
2. 年代
天明2（1782）年
3. 願主
東町角屋小左衛門
（側面に「寄附 井上氏」の刻印）
*角屋が井上性を名乗ったか？
4. 製作者（石工）
不詳
5. 石材
不詳